

平成 29 年第 24 回

# 札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成29年第24回教育委員会会議

1 日 時 平成29年12月19日（火） 13時30分～14時15分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長 岡	豊 彦
委 員	阿 部	夕 子
委 員	佐 藤	淳
委 員	長 田	正 寛
委 員	石 井	知 子
教育次長	大 友	裕 之
生涯学習部長	山 根	直 樹
教育政策担当課長	保 木	一 成
教育政策担当係長	堀 川	信 乃
教育政策担当係長	小 林	明 弘
教育政策担当係員	大 脇	章 広
教育政策担当係員	大 津	翼
学校施設担当部長	平 野	誠
学校教育部長	引 地	秀 美
教育推進課長	仙 波	晴 彦
教育推進係長	上 野	千 沙
学事係長	穴 田	卓 也
学事係員	福 田	憲 司
研修担当課長	工 藤	真 嗣
研修担当係長	菅 野	智 広
教職員担当部長	檜 田	英 樹
服務・人事制度担当係長	根 尾	毅
総務課長	宮 地	宏 明
庶務係長	國 方	大 翼
書 記	洞 内	亮

4 傍聴者 5名

5 議 題

報告第1号 札幌市が求める教員像について

議案第1号 平成30年度札幌市奨学生（予約採用者）の選定について

**【開 会】**

○長岡教育長 これより、平成29年第24回教育委員会会議を開催いたします。

本日の会議録の署名は、長田正寛委員と石井知子委員にお願いいたします。

本日は、池田官司委員から、所用により会議を欠席される旨のご連絡がありました。

本日の議案第1号は、奨学生の選定に関する事項であります。

教育委員会会議規則第14条第1項第1号の規定により、公開しないこととしたいと存じますけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、議案第1号については、公開しないことといたします。

## 【議 事】

### ◎報告第1号 札幌市が求める教員像について

○長岡教育長 それでは、議事に入ります。報告第1号 札幌市が求める教員像についてであります。事務局から説明をお願いします。

○学校教育部長 札幌市が求める教員像についてご報告させていただきます。

教育委員の皆様には、6月にも一度ご説明いたしました。昨年度、教育公務員特例法が改正され、各都道府県及び政令市教育委員会において、教員育成協議会を設置し、教員育成指標及び教員研修計画を策定することが示されました。

札幌市におきましては、教員育成指標のもととなる求める教員像について、昨年度、北海道教育委員会と共通理解を図り、6月の教育委員会会議において、札幌市が求める教員像を委員の皆様にお示したところでありました。

あわせて、札幌市教員育成協議会の設置及び目的や教員育成指標及び教員研修計画の策定の流れ等についてご説明いたしました。

6月の教育委員会の後、8月、10月、11月の3回にわたり協議会を開催し、教員育成指標及び教員研修計画について検討を重ねてまいりました。

その過程において、教員育成指標の整合性を図る等の観点から、札幌市が求める教員像を一部修正いたしました。

つきましては、改めて札幌市が求める教員像についてご報告申し上げます。

それでは、修正した箇所についてご説明いたします。

資料1の札幌市が求める教員像と、資料2の、6月にお示した札幌市が求める教員像をご覧ください。

まず、三つの教員像の下の四角で囲まれた部分において、これまで「キーとなる資質能力」と表していたものを、求める教員像を目指すに当たり、必要とされる具体的な資質・能力として意味付けを明確にするため、「身に付けたい資質・能力」という言葉に修正しました。また、文言等についても整理し、最終的に資料1にあるような形にまとめさせていただきました。

また、「身に付けたい資質・能力」の具体的な項目につきましては、例えば、資料2の一番上のキーとなる資質能力の白丸の三つ目にある「総合的人間力」について、協議会委員からわかりにくいとの意見がありまして、資料1では「人間性」と修正しております。

なお、別冊の未定稿の資料3ですが、参考資料として、協議会の中であわせて検討してまいりました教員育成指標、教員研修体系、教員研修計画についても掲載しておりますので、改めてご覧いただきたいと思います。

以上、札幌市が求める教員像についてご報告させていただきました。よろし

くお願いいたします

○**長岡教育長** ありがとうございます。報告第1号の札幌市が求める教員像についてですが、ただいまの説明に対して、資料自体が細かいのですが、お気づきの点がありましたらお願いします。

○**長田委員** 資料2に、札幌市が求める教員像について、アンケート調査を実施するなどして検討したということですが、これは誰に対するアンケートですか。

○**学校教育部長** 先生等です。全道あるいは札幌市の校長会等で校長先生にお伺いした形になります。

○**長田委員** いつごろ行ったのですか。

○**学校教育部長** 今年の10月です。

○**長田委員** そのアンケートの中で、何かご紹介いただけるようなことがありましたら教えていただきたいと思います。

○**学校教育部長** かなり詳細にわたったアンケートでして、例えば、教師に求める不易の資質・能力は6項目ありまして、使命感、責任感、実践的指導力、総合的人間力、教育的愛情、コミュニケーション能力、専門的知識といった内容があります。その中で、教科や教職に関する専門知識がかなり高いとか、今後必要な資質・能力では、チーム学校という組織の一員として働く力、教師としてずっと学び続ける力などが示されておりました。

また、アンケート結果の傾向としましては、基本的な素養ということで、総合的な人間力、使命感、責任感、教育的愛情、それから、専門性の部分では児童生徒理解、子ども理解等について、やはり今日的課題のいじめ等へ対応ということで、かなり多くのお声をいただいたところであります。

○**長田委員** 協議会が3回開かれているのですが、その中で、これは必要だと思われる意見が委員から出ていたのであれば、ご紹介いただきたいと思います。

○**学校教育部長** 教員育成協議会の中では、特に文言について非常に精査をいただきました。

先ほどもご説明申し上げましたが、6月の協議会では、この資料の中に人間性、社会性、協調性と書いてあるのですが、人間性が大きいのではないかと、社会性、協調性を包含するものではないかというご意見を何名かの委員からいただきました。

また、今回お示しした札幌市が求める教員像の中には、社会性、協調性、柔軟性という言葉も入れさせていただいて、それを全て含めて人間性という形で示しております。そういうふうに、ほぼ言葉の整理でありました。

ほかにいただいた意見としては、札幌市が求める教員像と指標と研修がちゃんとリンクして、この研修計画につなげていくということで、相互の連携を重視する、また、先生方にわかりやすいような形で提示等をしていただきたいという意見もありました。

**○長田委員** この2点に関してですが、研修の実施に際して、国からいろいろな関係機関と連携、協働するとなっております。行政機関だけではなく、さまざまな関係機関との関係構築に努めることが重要となっております。ここをベースにして、この中で示されている研修などで工夫したようなところがあればご紹介ください。

**○学校教育部長** 関係機関との連携については、これまでも進めてきましたけれども、例えば、教員のメンタルヘルスにつきましては、医療機関と連携した部分があります。

また、生徒指導関係の研修においては、警察等、法令等につきましては弁護士の皆さんからも講師をお願いすることで進めてきております。

全国的な大学の有識者もお招きして、特にマネジメント等にかかわる研修等も新たに盛り込んで強調していくということですが、右肩に参考資料6と書いてある資料をご覧ください。

この中の右側の専門研修のところですが、上から一つ目の白丸に、職場のメンタルヘルス対応へのアドバイスということで、医療関係の方などをお招きして、現在、札幌市教職員のメンタルヘルスが課題の一つになっており、そのあたりはしっかり管理職研修とともに続けていくということで、重点を置いて盛り込んだ部分です。

また、先ほどの弁護士の専門家をお呼びしてのものは、法的視野での危機管理能力などのあたりに盛り込んでおります。

**○長田委員** ありがとうございました。

○阿部委員 何点かお伺いしたいのですが、まず、札幌市が求める教員像という像が出来上がったということですが、今後、これをどのように活用していくのかというところについて、もう少し詳しくご説明いただきたいと思います。

この未定稿のところに触れさせていただきたいのですが、ページ数がわかりません。番号でいいますと4と5のところに書かれていることかと思いますが、これをもとに、例えば、札幌市が求める教員像について、研修制度を具体的にいつから始めて、いつぐらいにこうなっていきたいという計画的なことがこの文言からはわかりにくいと思いました。どういうマイルストーンでやろうとされているのか、また、その内容についても少し教えていただきたいということが一つです。

もう一つは、意見になってしまうかもしれないのですが、先ほどの長田委員の質問と関連して、関係機関との連携のところですけども、行政機関だけではなくということで、医療、警察、弁護士関係というお話が出てきまして、求める教員像の大きな2番目の三つ目の丸に、進路指導力と書かれています。キャリア教育のことだと思うのですが、これに関連して、教員の方たちは教育の現場で働いていて、皆さんはやはり知っていると思うのですが、一般企業と連携するに当たって、企業が求めている人物像として、どういう人材を求めているかということも進路指導としては必要な要素になってくると思います。

ですから、意見に近いのですが、関係機関との連携という研修スケジュールの中に企業との連携も入れていただくことが、非常に重要なポイントとにもなるかと思いました。

そのあたりのお考えについてのご意見をお伺いできればと思うのですが、以上2点についてお願いいたします。

○学校教育部長 まず1点目ですが、札幌市が求める教員像につきましては、大学のほうにも示すものでありまして、教員を目指している札幌市の大学生に、札幌市が求める教員像とはこういう教員像で、こういう資質、能力が求められているということを札幌市の教員になる上での指標として使っていただくことがあります。

現職の先生方につきましては、初任者、ミドルリーダー、管理職という段階に分かれておりますが、札幌市が求める教員像を目指して、指標に示されているステージの中で、それぞれの力を自分たち自ら身につけていこうということで、あくまでも自己目標を持つ上での指標としております。ですので、必ずここに到達しなさいということではなく、あくまでも、この指標に向かって研さんを積んでいただくこととなります。そして、その研修については、こういうものを準備しているということです。

したがって、これは文部科学省でも示しているのですが、この指標をもって人事評価などにつなげるものではないということです。

二つ目につきましては、今、阿部委員がおっしゃったように、私たちも企業の方々から学ぶということで、企業が求めている人間像について研修して学ぶという場面ももちろん想定しております。経営者の方々からは、特に組織マネジメント、会社経営の方法等を指導いただいて、管理職の資質・向上に役立てるようなことも考えております。

○阿部委員 一つ目の質問についてもう少しお聞きしたいのですが、今の部長からのご説明だと、人物像をお示しして、教員の方たちの自助努力で人物像に近づいてくださいというニュアンスに聞こえましたが、その理解でよろしいですか。

○学校教育部長 ただ、私たちとしても、目指す教員像に近づいていただきたいと思っております。ですので、先生方から目標シートなどを毎年つくっているのですが、その中にこの研修の部分を位置づけていただいて、私たちも研修をするときには、この指標に基づいた研修を行って、振り返りシートなどを書いていただいてフィードバックをしていきます。そういうことで、私たちはこの指標、求められている資質、能力の育成を図っていきたいと考えております。

○阿部委員 教育委員会から、こういうセミナーや研修の機会があるということをお示しして、そこに手を挙げてもらうような仕組みですか。それとも、この研修は全員が受けてくださいという仕組みですか。

○学校教育部長 研修には、法定で決まっている悉皆の初任者研修などもありますし、私どものほうで、管理職は必ずこの研修とこの研修には来てくださいということで悉皆の研修もあります。

一方では、専門的知識や技能を身につけたいということで、私どもが幾つか用意するのですが、そこから選択していただく研修もありまして、その両方を組み合わせております。

○阿部委員 ということは、教員のやる気やモチベーションだけではなく、こちらからもある程度背中を押して、この人物像に近づくような支援をしながら、あとは、教員の皆さんの努力や、モチベーションにも少しずつ頼りながら、お互いに補完し合っていくというイメージですか。

○**学校教育部長**　そうです。

○**阿部委員**　イメージはわかりました。

○**長岡教育長**　ほかにありますか。

○**長田委員**　意見ですが、もっともな求める教員像かと思いますが、点検評価をやっていて、子どもに対する教育ですから、その視点が重要ではないかと思えます。

札幌市の点検評価の際に問題となっていた、将来の夢や目標を持っている子どもの割合ですが、年度別の成果指標が順調ではなかったです。あそこを右肩上がりにすることが札幌市の教育で今一番求められることだと思います。そうすると、教師にもそれを前提とした教員像がなければいけないと思ったのです。

ここに三つあるのですが、これはもっともなところで、私も全国的なものを見ましたが、みんな同じような目標を掲げているので、これが特にどうだということはありません。しかし、子どもが夢や目標が持てるような教員が求められているのではないかと思います。

最近でいいますと、国際性とか、グローバル化に対応するとか、大学ではなく、小・中学校の教員なので、そこまで大上段に構える必要はないと思いつつも、そういう視点で、札幌市の学校の先生のあり方について採用とか研修の中でそういうものを反映できるような工夫が欲しいと思います。

ざっくりばらんに思ったことなのですが、そうすると、先ほどの研修についても、札幌市の中だけで考えるのではなくて、企業については先ほど出ておりましたけれども、市外や道外のもの、そんなところが欲しいと思いました。

協議会では、有識者の委員の方々からそういう意見はなかったのかと思いつながら先ほどはお聞きしておりました。

○**学校教育部長**　夢や希望のデータの分析につきましては、いろいろな角度からしていかなければならないと思っています。

例えば、全国学テの結果からですので、データをとっている時期、小学校6年生、中学校3年生の4月にとっている時期とか、いろいろと検討している最中です。また、夢や希望については、小・中学校とも、今回は若干上昇に転じている部分がありまして、それは、キャリア教育や進路探究学習などの成果が少し出てきていたりしていると思います。

今、お話しがありました夢や希望の部分については、私たちも非常に大きな課題と捉えております。そういった意味で、札幌市が求める教員像の上から二

つ目の丸の今日的課題への対応力については、アクティブラーニングの部分とか、今回、学習指導要領で出された部分がありますが、それ以外にICTを活用した指導があります。それから、今回、外国語教育と書いてありますが、これには国際理解教育も含んでおります。また、人権教育などもあります。こういった今日的課題への対応力ということで、今、課題になっている部分、これから必要になってくる部分を教員の皆さんにもお知らせして研修を深めていくことは非常に大事なことでありと捉えております。そこはしっかりと意識していきたいと思っております。

また、道外への研修についてですが、もちろん、私たちも市内だけでなく、道外の大学の先生、専門の方をお招きしての講演会も考えております。やはり今日的課題の部分での専門家の皆様のご指導を仰ぎながら、札幌市の教員の資質向上をしていきたいと考えております。

○長田委員 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○石井委員 二つあるのですが、まず、一つ目は、前回の教員像から今回の教員像が変わって、連携及び協働に関する事項のところに「園」という言葉が入ったのが、未就学の子どもを育てる保護者としてはうれしく思いました。

何となく学校教育というと、未就学児は除外されているような印象をずっと受けていたのですけれども、「園」という言葉が入ったことで、未就学児の子どもにも目を向けてもらっている、そして、信頼関係を築くと前回のポイントでは書かれているのですけれども、そこから一歩進んで、信頼関係を築きながら園や学校づくりに参画していくというところで、一歩進んだ感じが出て、保護者としてはとてもうれしく思いました。

二つ目は、意見になってしまうかもしれないですが、こういった教員像や指標ができると、どうしても熱心で真面目な教員の方ほど、すごく長時間労働になってしまうのではないかと不安があります。

保護者としては、教員の資質の向上をもちろん求めているのですが、一番求めているのは、教員の方々が子どもと生徒とどれだけ向き合ってくれるかということがとても気になるところです。最近、教員の方々の長時間労働がメディアで盛んに取り上げられて話題になっているところでもあり、先生たちの長時間労働はすごく心配なところでもあるので、もし、今後、こういった指標ができるとしたら、事務の仕事の効率化や工夫、意識などを改善するという文言も少し入れていただきたいと保護者として思いました。

○学校教育部長 まず、研修についての先生方の負担の部分は、私たちも働き

方改革が叫ばれている中で非常に重視しております。ここにステージごとの研修の内容について列挙させていただきましたが、この運営面につきましては、1日でやっていた業務を半日にするなど、長期休業中の子どもとかかわる時間ではないときに研修を計画するなどして、先生方の負担軽減、子どもに向き合う時間を確保することを重視しているところです。これは、今後も引き続き留意していきたいと考えております。

○石井委員 ぜひ、お願いいたします。

○長岡教育長 私からも一つあります。繰り返しになるかもしれませんが、この求める札幌市が求める教員像ですが、育成指標、研修計画については、中身のしっかりした手引といますか、計画的なものができたと思います。

仏つくって魂入れずではないですが、このすばらしいものをこれだけで終わらせるのではなく、これから魂を入れる作業にしっかりと取り組んでいただきたいと思います。そうしなければ、絵に描いた餅になってしまいます。

そういう面で、まず、教員の採用段階から、札幌市の教員になりたいという方々にこれをよく知ってもらう努力をする、そして、採用になってからも、教員の卵に対してこの自覚をしっかりと持って、常に振り返ってみてもらう努力をする。また、その方々が中堅管理職になったときにこの育成指標を振り返って、その仲間に、これをさらに共有して高め合っていただくことで、これからそういう手順を踏んでいただくこととなります。

そこのところはこれからが本番だと思っておりますので、この計画を育てていくために、意を用いてしっかりと取り組んでいただきたいと思います。委員の皆さんも同じ認識だと思っておりますので、お願いいたします。

それでは、報告第1号については、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、報告第1号は以上といたします。議案第1号は公開しないことといたしますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。

[傍聴者は退席]

**以下 非公開**